



できないところからはじめ、ふやこつらじり

大和市適応指導教室「相談教室まほろば」(大和市)

本県下で、何らかの原因で学校へ行けない、あるいは行きたくても登校することができない「不登校」の小中学生は、平成十四年度で約九千五百人と、年々増加する傾向にあります(学校基本調査)。

県や市町村教育委員会では、そんな子どもたちが学校生活に復帰できるように教育支援センター(適応指導教室)を設置し、カウンセリングや学習・体験活動、集団生活への適応指導等を行っています。

今回はその一つ、大和市の適応指導教室「相談教室まほろば」で専任教員を務める、吉ヶ江先生にお話を伺いました。

自分自身を見つめ直せる場所

まほろばが設置されたのは平成三年。以来十数年に渡り、専任教員や相談員、ボランティアの方々が子どもたちを支えています。

「不登校の子どもたちの多くは、学校や家庭での人間関係のつまづきが大きな要因の一つとなっており、良好な対人関係を作ったり、自己表現が上手くできないといっ

た問題を抱えています。そこには、親からの期待に何とか応えたい、友だちに嫌な思いをさせたくないという思いが先行するあまりに、自分の身動きが取れなくなってしまう。皆、本当は学校に行きたい



教室での学習風景。生徒一人ひとりにスタッフやボランティアの方が真摯に対応していく

と思っっているし、登校できない自分を責めているのです。教室では、まずじっくりと子どもたちの話を聴きます。そして、遊びなどのきっかけから良い関係づくりに努め、学習支援へ結びつけていきます。ここに来てどんな教科を学習する

かは、子どもたち自身に決めてもらいます。しかし、登校していい訳ですから、何をどうしてよいか分からないのが現状のようです。そんな時は、スタッフと話し合いながら少しずつ進めていくようにしています」と吉ヶ江先生。

まほろばでは、個別に行う教科授業の他、皆で取り組む「総合的な学習」にも力を入れています。

「子どもたちが、人と関わりながら多くの社会経験を重ねることで、自信や安心感、積極性を取り戻すことが何よりも大切と考え、総合的な学習では、教室で行う調理実習や講師を招いての講演会のほか、野外での園芸やスポーツ活動、キャンプなどを行っています。

今後は、子どもたちが自分自身をもう一度見つめ直せる場所として、包容力のある支援に努めるとともに、自分の力で歩み出した子どもたちを、温かく迎え入れてもらえる学校や家庭、社会づくりに積極的に関わっていかねければならないと感じています」と語ってくださいました。

(企画課)

相談教室まほろば
TEL 046-260-5032
URL http://www.city.yamato.kanagawa.jp/seishou/mahorobahp/index2.htm

—社会福祉施設の設計監理—

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771(代) / FAX03(3449)1772
E-mail: BCH12011@nifty.com



K保育園(横浜市)



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください